

パラグアイ内政・外交報告（9月分）
政治情勢

2017年10月作成

1 内政

（1）パラグアイ国民軍による誘拐事案

1日、サンペドロ県のメノニータ移住地において、メノニータの青年がパラグアイ国民軍（EPP）に誘拐される事案が発生した。EPPによる未解放の誘拐被害者は計5名となった。また、共同捜査部隊（FTC）による取り組みが不十分であるとの批判の高まりを受け、7日、カルテス大統領は、EPP対策は政府の優先課題である旨発言した。

（2）高校生による学校占拠

6日、全国学生連合を中心とする高校生が、政府による教育分野への投資拡大を求め、首都圏の高校6校を占拠・封鎖した。その後、学校占拠の動きはサンペドロ県及びグアイラ県の複数の高校にも広がった。18日、リエラ教育相は記者会見を開き、同日時点で全ての学校占拠は解除された旨発表した（理由には言及せず）。

（3）リベラル党と左派連合の選挙協力

13日、アレグレ リベラル党党首及びマルティネス左派連合党首は左派連合本部で会合した後に記者会見を開き、2018年大統領選挙で両党が協力し、リベラル党党内予備選挙の勝者を大統領候補とし、左派連合のレオ・ルビン氏を副大統領候補として大統領選に臨むこと発表した。

（4）小農への融資強化及び生産再活性化法案の議会通過

14日、小農への融資強化及び生産再活性化法案が上院を通過した。27日、同法案は下院を通過し、大統領による公布を待つこととなった（その後、同法案は10月12日に公布された）。本件法案は、小農の負債の再編及び再融資を目的とするもので、議会で可決された小農の債務帳消し法案に対して大統領が拒否権を行使した後、その代替案として議会に提出されていたものである。

（5）青年庁長官の交代

21日、ソト青年庁長官は、2018年のカアグアス県知事選挙に出馬するため、同職を辞任した。後任には、マガリ・カセレス青年庁国際関係局長が就任した。新長官は26歳の女性であり、カルテス政権最年少の閣僚となった。

2 外交

（1）岡本外務大臣政務官のパラグアイ訪問

1日から2日にかけて、岡本外務大臣政務官がパラグアイを訪問した。1日にはロイサガ外相と会談し、二国間関係や国際情勢等について意見交換を行い、二国間投資協定交渉の開始に合意した。また、同会談後、岡本政務官立ち会いの下、無償資金協力「パラグアイ川浚渫機材整備計画」に関する書簡の交換が行われた。さらに、岡本政務官は当地滞在中、日系社会代表者及び日本企業関係者と懇談した他、草の根無償資金協力案件の落成式に出席した。

(2) カルテス大統領のアルゼンチン訪問

ア 12日、アルゼンチンを訪問したカルテス大統領は、マクリ同国大統領との間で首脳会談を行った。両首脳は、亜からパラグアイに権利譲渡されている亜ロサリオ港のフリーゾーンの移転に関する覚書に署名した他、パラグアイ、亜、ウルグアイ3国による2030年のサッカーW杯共催について意見を交わした。

イ 同日、カルテス大統領は、亜訪問中のネタニヤフ イスラエル首相と首脳会談を行い、二国間関係、経済協力、国際情勢等について意見交換を行った。

(3) ロシアとの原子力エネルギー協力協定

19日、ウィーンにおいて、パラグアイとロシアとの間で原子力エネルギーの平和利用に関する協力協定が署名された。本協定は、今後両国が具体的な協力案件を進めていくための法的枠組を提供するものである。

(4) カルテス大統領の国連総会出席

ア 20日、カルテス大統領はニューヨークで開催された第72回国連総会において一般討論演説を行った。また、同大統領はニューヨーク滞在中、トランプ米大統領、タミームカタール首長、グテーレス国連事務総長と会談した。

イ 20日、今次訪問に同行したロイサガ外相は、コーヴニー アイルランド外務・貿易相と二国間会談を行った。

(5) ヤシレタ水力発電所に関する交換公文の署名

28日、ロイサガ外相とフォーリー亜外相は、パラグアイ外務省において、両国が共同管理するヤシレタ水力発電所の財政問題を整理するための交換公文に署名した。

(6) 新筆頭外務次官の任命

28日、国際海洋法裁判所裁判官に就任するカページョ筆頭外務次官の後任として、フェデリコ・ゴンサレス駐亜大使が任命された。

3 要人往来

(1) 来訪

- 岡本外務大臣政務官
- フォーリー亜外相

(2) 往訪

- レイテ商工相、チリ訪問（商業ミッション）
- レイテ商工省、伯訪問（メルコスール通商大臣会合）
- バイアルディ女性相、ペルー訪問（米州女性委員会）
- カルテス大統領、米国ニューヨーク訪問（国連総会）
- バリオス厚生相、米国ワシントン訪問（米州保健会議）
- レイテ商工相、ポルトガル訪問（商業ミッション）